不漁続きの有明海で漁民の自殺が多発！

こんでも諫早湾干拓と漁業被害の因果関係はなかとか

諫早湾干拓事業の見直しを求めている「有明海漁民・市民ネットワーク」が行なった漁民からの聞き取り調査の結果、漁民の自殺・自殺未遂事件が九九年から六年間で一三件にのぼり、昨年以降七件と急増していることがわかった。

永尾 俊彦

ほとんどの事件の背景には、干拓のために諫早湾が潮受け堤防で一九九七年に閉め切られ、稚魚の産卵場所であり、高い水質浄化能力もあった諫早干潟がつぶされてから顕著になった不漁がある（表参照）。

事件全一三件のうち、三件は佐賀県太良町の大浦漁協で起きた。ここは大型の二枚貝タイラギの潜水漁がさかんだったが、諫早湾閉め切り後の九九年に壊滅した。また九件は、福岡県大和町六件、同県高田町二件、同県大牟田市一件といずれも同県南部で起きている。大牟田市以外の事件は海苔漁師だ。

大和町の漁家は、五つの漁協あわせて四〇二世帯。そこで六件もの事件が起きているのである。

海苔の栄養塩の最大の供給源である筑後川に近い佐賀県東部や福岡県北部は、二〇〇〇年度の大凶作以降は諫早湾の閉め切り前ほどではないにしてもある程度はとれている。だが筑後川から遠い福岡県南部は不作続きであることを反映して、この地域で自殺者が多いと考えられる。

その典型例が昨年二月二一日に起きた福岡県大和町有明漁協の海苔漁師の承諾殺人事件だ（表⑧）。この漁師は不漁による借金苦から母親に心中をもちかけ、承諾をえて刺し殺したあと自殺を図ったが死にきれず、承諾殺人の罪に問われた。

この漁師の水揚高は、九九年度まで安定して一六〇〇万円以上だったのに、〇〇年度に五分の一の三四〇万円に激減、〇一年度は一四〇〇万円まで回復したものの、〇二年度一〇〇〇万円、〇三年度一一〇〇万円と不作続きだった。これは福岡県南部の漁民共通の傾向だ。

昨年七月九日、福岡地裁久留米支部で言い渡された判決で、高原正良裁判官は「平成一二（〇〇）年度分からの海苔の不漁による水揚げ額の減少は、その生活を塗炭の苦しみに追い込むものであった」と被告に同情を示し、懲役三年、保護観察付き執行猶予五年（求刑懲役五年）という異例の寛大な判決を下した。

崩壊する地域や文化

福岡県南部は、諫早湾の対岸だ。漁民たちは「前は諫早湾の方から西風が吹くと吹き寄せられた海水で海苔が黒くなったのに、閉め切り後は色落ちする」と口をそろえる。

潮受け堤防内からの低栄養塩の排水が対岸の福岡県南部を直撃することや、閉め切りによって有明海の潮流や潮汐が鈍化して頻発するようになった赤潮が海苔の栄養塩を奪うことが色落ちの原因だとする科学者の研究も明らかになっている。

しかし農林水産省はコンピュータのシミュレーションなどをもとに頑として因果関係を認めず、潮受け堤防の排水門を開放して干潟を蘇生させ、潮流や潮汐を戻してほしいという漁民の要求も拒否し続けている。

長崎県有明町漁協の宮本雄二さんは〇一年一一月、東京の農水省で潮受け堤防から汚水が排水される写真を農水官僚に突きつけ、「こんでも諫早湾干拓と漁業被害の因果関係はなかとか」と迫った。宮本さんはその後、佐賀地裁に工事差し止めの仮処分を求め、昨年八月、同地裁は画

汚水が排出される写真を突きつけ、抗議する宮本雄二さん。（写真撮影／筆者）

期的な差し止めを決定した。
農水省は異議申し立てをしたものの今年一月に退けられた。それでも同省は「（漁民側は）因果関係を客観的に立証していない」などとして福岡高裁に抗告、また同高裁に仮処分の執行停止も申し立てた。
そういう中で一月二一日、極端な不漁続きで希望を見失った宮本さんの兄の妻（四五歳）が大量に睡眠薬を飲んで自殺した（表⑫）。「漁があれば、こんなことはなかったですよ」と宮本さんは痛恨の思いでいる。
聞き取り調査をまとめた同ネットの吉川多佳子さんはこう話す。
「農水省は、ここまで漁民を追いつめて、どうして因果関係がないと言えるのでしょうか。自殺までいかなくても『予備軍はいっぱいいる』という声はよく聞きました。漁業を廃業する人も多く、後継者がいない、つくらないという声はどの地域でも聞かれました。地域や文化の崩壊が加速度的に進行しているんです」
漁民側は、〇三年に公害等調整委員会に因果関係の裁定も求めた。いよいよ来週三月二八日に結審、五月の連休前後にも漁民対農水省の攻防の最大の焦点である因果関係の有無に裁定が出される見通しだ。

ながお　としひこ・ルポライター。

堤防閉め切り以降、有明海漁民の自殺・自殺未遂事件

	事件発生年月日	県・所属漁協	年　齢	事件の背景など
①	1999年１月か２月ごろ	福岡県（大和町）有明漁協	50歳前後	海苔漁業者。首吊りによる自殺。借金苦ではないかと言われている。
②	1999年前後の１月ごろ	福岡県（大和町）有明漁協	50代～60代	海苔漁業者。土手にて焼身自殺。原因は不明。
③	1999年３月	福岡県（大和町）大和漁協	62歳	海苔漁業者。首吊りによる自殺。高品質の海苔を作ることで、組合の中では目立った存在だった。設備投資直後、漁業不振に陥る。諫早湾潮受け堤防閉め切りの翌年より、今まで恵まれていたはずの沖漁場で、早い色落ちが始まる。「諫早湾の中はもうヘドロみたいになっている」と生前、よく言っていたという。
④	2002年12月ごろ	福岡県・大牟田市周辺漁協	60代	潜水漁業者。諫早干拓工事以降の漁業不振により生活苦となり、島原沖で潜水道具の錘を抱いて入水自殺未遂。その後は生活保護での暮らしとなる。
⑤	2003年８月	福岡県（高田町）高田漁協	53歳	海苔漁業者。首吊りによる自殺。原因は定かではないが、借金だろうと言われている。(04/5/28『読売新聞』九州他掲載)
⑥	2003年10月下旬～11月の初めごろ	福岡県（大和町）大和漁協	60代	海苔漁業者。海苔作業小屋で自分の腹を刺す。未遂。原因は定かではない。鬱病だったとの噂もあるが、海苔との関係も疑わざるを得ない。03年は秋芽が採れず、冷凍入庫の時期（10月下旬～11月初）も、沖漁場では海苔が色落ちしかかっていた。(04/5/28『読売新聞』九州掲載)
⑦	2004年１月31日	佐賀県（太良町）大浦漁協	65歳	潜水漁業者の妻。首吊りによる自殺。潮受け堤防閉め切り後、タイラギ休漁を余儀なくされ、他の網漁も著しく水揚げが減少していた。(04/5/28『読売新聞』九州掲載)
⑧	2004年２月21日	福岡県（大和町）有明漁協	45歳	海苔漁業者。承諾殺人。借金苦のため、母親と心中を試みるが、自身は未遂に終わる。潮受け堤防閉め切り以降からの不作に追い打ちをかけた00年度の大凶作で、水揚げは以前の５分の１に落ち込む。設備投資した直後だった。周囲によると自身は真面目な性格で、海苔漁が休みの夏場も工場などで働いていたという。04年７月、福岡地裁久留米支部は、懲役３年、保護観察付き執行猶予５年（求刑懲役５年）を言い渡す。(04/2/22『読売新聞』九州、04/7/9『西日本新聞』、04/7/11『サンデー毎日』他掲載)
⑨	2004年４月24日	佐賀県（太良町）大浦漁協	47歳	主にエビ網漁を行なっていた。作業小屋にて網をかけて首を吊る。１年を通じての著しい不漁が10年以上も続いていたという。生活費、漁業のための設備投資などのため、借金をしたものの、返済できず、気に病んでいたという。そのせいか、ここ数年鬱状態だったという。(04/7/11『サンデー毎日』他掲載)
⑩	2004年５月上旬ごろ	福岡県（高田町）高田漁協	45歳	海苔漁業者の妻。首吊りによる自殺。原因は定かでない。鬱病だったとの噂もあるが、海苔漁期終了後の事件に「海苔が普通に採れてさえいれば死ぬ事はなかっただろう」と漁師の間では話されていた。(04/5/28『読売新聞』九州掲載)
⑪	2004年12月	福岡県（大和町）中島漁協	50代前半	海苔漁業者。川端の共同使用の海苔荷揚げ用クレーンで首を吊る。原因は定かではないが、ちょうど冷凍網を張り込んだ直後で、当時、栄養塩が減り始め、海苔の色落ちが心配されていたころだった。
⑫	2005年１月21日	長崎県（有明町）有明町漁協	45歳	漁船漁師の妻。睡眠薬を大量に飲み、自殺。家庭内の問題では、という声もある一方、「漁さえできていれば」という声も周囲から聞かれた。
⑬	2005年１月24日	佐賀県（太良町）大浦漁協	47歳前後	潜水漁業者。自殺ではないが、出稼ぎ潜水士の過労死ともいえる死亡事故であった。操業終了後、潜水・高気圧症で、出稼ぎ先近くの病院で治療を受け、一時回復するも、しばらくして意識不明となり死亡。出稼ぎ先での労働条件は、労働時間や待遇など、地元での家族との操業に比べると、かなり過酷なものだったという。

作成／有明海漁民・市民ネットワーク　　2005年３月12日現在